



本会記事

■最近の本学会広報委員会活動と第1回「おもしろ科学教室」共同主催報告

1. 学会広報委員会 今期活動目標

本学会広報委員会では、従来からの広報活動への取り組みに加えて、

- ・会員以外の一般への広報活動、とくに、小・中学校、児童・生徒およびその保護者に向けての広報活動の充実

を今期の最重点活動目標として設定しています。具体的には、

- 1) 児童・生徒を主な対象とする広報イベントへの参加あるいは、その企画・開催、
- 2) 広報イベントの際に配布するパンフレットの作成
- 3) 小中学生向け工作のアイデアの検討

などを広報委員会で議論し、現在、その活動をスタートしたところです。また、2)については、今後、学会発の児童向け啓発書の執筆、刊行へと発展させていくことなどを含め、現在、議論しています。

以上のような活動目標のもと、とにかく、まずは行動するというので、2009年1月12日(祝)に、東海地区(名古屋大学)で開催された第1回「おもしろ科学教室」に共同主催者として、積極的に参加し、展示・説明を行ないました。

本学会が、このような小・中学生向けのイベントに参加するのは、初めての試みで、当日、どれほどの反響があるのか正直、危惧しました。しかしながら、展示に詰め掛けてくれた多数の小・中学生の旺盛な好奇心、熱気、率直な驚きとその反応から、それは杞憂であり、このような一般向け広報活動の意義をあらためて感じさせてくれるものでした。

広報委員会としては、この機会に広報委員会活動目標、その具体化としての「おもしろ科学教室」への参加を報告し、広く学会員からご意見をいただき、今後の学会広報活動、とくに一般向けの広報活動について、さらなる議論と活発化の契機にしたいと考えています。

2. 「おもしろ科学教室」

経緯と主旨

このイベントは、もともと応用物理学会東海支部が企画し、「益川、小林、下村各先生のノーベル賞受賞を記念し、また様々な学協会、団体が一致団結して、青少年の科学技術への関心を高める試みを第1回『おもしろ科学教室』として開催する」ことを主旨として、行われたものです。本学会には、中村常務理事(核融合科学研究所 教授)のもとへ昨年11月に、この教室の開催責任者である応用物理学会東海支部 高井吉明先生(名古屋大学工学科研究科エネルギー理工学研究専攻 教授)から、参加の打診がありま

した。ちょうど、広報委員会では今期第1回の広報委員会を2008年10月28日に開催し、§1に述べた今期活動目標を設定し、その具体策を模索していたところでした。とにかく、まずは学会の外に一歩踏み出し、一般の方への広報活動を実施することが重要と考え、積極的な参加を決め、2008年12月の本学会理事会の承認を得ました。また、参加にあたっては、中村常務理事のご尽力により、核融合科学研究所の協力を全面に仰ぎ、プラズマ、核融合関連の展示を行なうことにしました。

実施内容、実行スタッフ

当日の実施内容については、表1にまとめるとおりです。応用物理学会(10名)、本学会の他、電気学会(3名)、電子通信学会(2名)、日本物理学会(3名)、日本アマチュア無線東海地方本部(18名)、日本赤外線学会(1名)、日本弁理士会(5名)、NPO法人アスクネット(3名)、名古屋大学(秘書課)、愛知県(2名)の共同主催、JSTイノベーションプラザ(4名)共催のもとで、多数の実行スタッフが文字どおり一致団結して当日の講演、理科工作とゲーム、展示、電子紙芝居、ビデオ上映などにあたりました(括弧内は、実行スタッフの数)。

本学会からは、中村常務理事、日渡広報委員会幹事(電力中央研究所)、福元先生(福井大学)、中村圭二先生(中部大学)、杉山さん(学会事務局)、そして、私の計6名が実行スタッフとして、展示設営、説明、学会広報パンフレットの配布などを行いました。表1に示したように、本学会からは展示として、「超伝導磁気浮上列車」「プラズマ・ボール」、「くるくるヘリカル」(写真1, 2, 3参照)、また、ビデオ「核融合エネルギー」の上映を行いました。

とくに、「超伝導磁気浮上列車」は好評でした。液体窒素で冷却された酸化物超伝導体(セラミック)を乗せた模型列車が、永久磁石の上で浮上し、走行することへの子どもたちの驚きは想像以上のものであり、いつまでも展示の前から離れようとしないう子どもたち、さらに付き添いの方々の方でいっぱいでした。そのため、デモンストレーションの回数も予想を超え、用意した液体窒素の不足を心配するほどでした。NHK名古屋放送局からも、直接取材を受けました。また、「プラズマボール」に直接触れ、プラズマを体感したときの子どもたちの率直な驚き、「プラズマって何?」、「オーロラもプラズマなの?」、「なぜ、プラズマからの発光の色は違うの?」など、ほんとうに多くの感想、質問が子どもたちはもちろん、付きそいの方からも寄せられました。

このような子どもたちの展示物への真剣な眼差し、率直なりアクション、旺盛な好奇心は、各学会の利害など超越しています。彼らの素朴な疑問に真摯に答えるべく、実行スタッフが、年齢、所属を超え、一生懸命に説明にあたる様子は、印象的でした。また、本学会の実行スタッフ共通

表1 「おもしろ科学教室」実施内容

実施内容	項目	担当
講演	「ノーベル賞のひみつ 素粒子のなぞ」	中村光廣先生 (名古屋大学理学部准教授)
理科工作とゲーム	風船ホバークラフト 風船ロケット 簡単モーターを使って回転だまし絵を見よう！ 超簡単 火災報知機 キットを探せ！ FOX ハンティング	応用物理学会東海支部 応用物理学会東海支部 電子情報通信学会東海支部 日本赤外線学会 日本アマチュア無線連盟東海地方本部
展示	くるくるヘリカル プラズマボール 超伝導磁気浮上列車模型 電子顕微鏡によるミクロの世界 大気圧プラズマ装置 竜巻を作ろう！ 髪の毛も逆立つバンデグラフゼネレータ ノーベル賞紹介	プラズマ・核融合学会 プラズマ・核融合学会 プラズマ・核融合学会 応用物理学会東海支部 応用物理学会東海支部 NPO 法人アスクネット 電気学会東海支部 名古屋大学
電子紙芝居	「発明」, 「特許」ってなあに？ ーパン職人レオ君物語ー	日本弁理士会東海支部
ビデオ上映	核融合エネルギー	プラズマ・核融合学会



写真1 展示風景 (超伝導磁気浮上列車の走行実演に集まる小・中学生と保護者)。



写真3 展示風景3 (プラズマボール)。



写真2 展示風景2 (くるくるヘリカルおよび磁気浮上列車遠景)。

の感想としては、小・中学生に説明をすることの難しさを実感した点です。その一方で、理解してくれたときの率直なリアクションは、普段、大学の講義では経験することの

ない達成感、さらには、各学会を超えた不思議な連帯感をもたらしたような気がします。

午後4時の展示終了時間になっても、多数のリピーターが「超伝導磁気浮上列車」, 「プラズマボール」の展示を訪れてくれました。また、年配の引率者からは、若いときに聞いた核融合の話をもとに、核融合開発早期実現へのエール、励まし、広報活動の活発化への期待の言葉をいただくなど、今回の初めての試みが間違いでなかったことを実感しました。

3. 今後の本学会広報委員会活動に向けて

今回、「おもしろ科学教室」の参加をとおして、小・中学生、保護者の方々と直接、接点を持つことができました。学会員以外の方々の持っているプラズマ・核融合へのイメージを肌で感じるとともに、多くのことを学びました。

プラズマ、とくに核融合開発は長期にわたる息の長い科学技術開発であり、その実用化にとって、現在の小・中学生が、一人でも多く関心を持ち、理解を示してくれることが必要であることに、間違いはないと思います。今回のイ

イベント参加が、最初で最後にならないように、あせらず、息の長い、一歩、一歩の着実な広報活動が必要であることを痛感しました。

今後、広報委員会では、

1. 全国各地での小・中学生を対象とした広報イベントの情報収集と参加検討
2. より主体的な広報イベントの企画
3. 小・中学生、保護者の方の疑問に、わかりやすく答

えることのできる質の高い広報パンフレットの作成と児童啓発書発刊

4. 各機関の広報活動、理科教材の調査などを、広報委員はもちろん、学会員の積極的な協力のもと、できる限り進めていきたいと考えています。そのため、学会員からのご意見、コメント、無理のない範囲でのイベント、教材に関する情報提供など、いただければ幸いです。
(本学会広報委員会委員長 畑山明聖)

■科学啓発活動に関するイベント情報や教材・展示物の調査に関するお願い

プラズマ・核融合学会広報委員会では、プラズマ・核融合に関する一般向け（特に、小・中学生向け）科学啓発活動の活発化を模索しています。下記の項目について、公開することが可能な情報をお持ちの学会員の方がいらっしゃれば、下記調査フォームに従い、学会事務局宛に、無理のない範囲で情報を寄せていただければ幸いです。

[項目1] プラズマ・核融合関連でかつ外部へ貸し出し可能な実験教材、展示など

オープンキャンパスや研究所一般公開等で利用している展示物、実験実演、一般参加実験教材等の情報をご提供ください。

[項目2] 他機関(学会、協会、大学など)主催の理科教育関連のイベントの学会への協力依頼

学会員の皆様が一般向けの広報イベントや大学の公開イベントなどへ参加するにあたり、学会からの支援を希望する方がおられましたら、情報をお知らせください。[項目1]等で収集いたしました教材・展示物の情報をもとに、可能な限り学会として協力するよう検討いたします。

[項目3] 他機関(学会、協会、大学など)主催の理科教育関連のイベント情報など

今後の小・中学生向け啓発活動を活発化する上で参考にするとともに、プラズマ・核融合学会としての共催参加等の検討に利用いたします。

なお、ご質問等ございましたら広報委員会幹事（日渡：hiwatari@criepi.denken.or.jp）までご連絡ください。

会員の皆様のご協力をお願い申し上げます。

===== 調査フォーム =====

(返信先：プラズマ・核融合学会事務局 plasma@jspf.or.jp)

○連絡先

御名前：
御所属：
電話番号：
E-mail アドレス：

○[項目1] に関して

教材・展示物名称：
概要：
留意点：

○[項目2] ならびに [項目3] に関して

開催日時：
開催場所：
実施担当者および連絡先：
学会への支援希望内容（[項目2] の場合）：

※上記調査フォームは本学会メーリングリストにて配信予定です。また、自由な形式でのご回答も受け付けいたします。